



題字 廉隅 進

幹事長就任のご挨拶

BN 728 横尾 廣志

逆若返りではありませんが、小田野君を引き継ぎ今期より2年、幹事長の任に就かせていただきます。天野会長のもと、伝統あるため会の運営に邁進してまいりますので、皆様のご指導とご鞭撻をよろしくお願い致します。



私が入学したのは昭和44年、東名高速が開通した年で、部長は木下先生、コーチが吉沢さんと横手さんでした。夏は3年生が雨のリーダー養成でボロボロだったためか山には全く縁がなく、四国の海岸線をひたすら歩くだけの日焼けでザックが背負えないヒリヒリ海合宿で、こんなワンデルングもあるのだと貴重な経験をしました。2年の時に藤井先生

第 49 号

明 治 大 学 体 育 会
ワンダーフォーゲル部
な た め 会 会 報

が部長に就任されました。先生にはドイツ語の授業を習っていました。クラブの新年長だから大丈夫だろうと油断していたら案外厳しい方で、もう一年おやりなさいと赤点をいただいたてしまいました。しかしこのときのご縁でいろいろお世話になりました。結婚式の

際は仲人をお願いするに至りました。またこの2年の時のリーダーが杉山さん、翌年3年生の年、監督が鈴木監督から手島監督に交代、この年のリーダーが住田さんです。4年の時の2年が諏訪本君、2年部員が一人のため無茶苦茶よく働かされたと今でも飲むたびに言われ続けていますが、ハイハイと聴いておかないと手白でチェンソーを使わせてもらえないので素直に聞いております。ちなみに1年に入ってきたのが小田野君ですが、フリー山行で登った越後駒で1年が一人だったため、働かない2・3年にかわって皿洗いを手伝わされたような記憶があります。

昭和47年度卒業以来、世間の人がお休みの日に働く百貨店勤務という仕事柄、なため会とはしばらく離れていましたが10年前に住田さんに声をかけられ手白のワークに参加。30年ぶりに小屋を訪れ、昔と変わらぬ佇まいに触れ、さらに杉山さん、住田さん、諏訪本君、小田野君とストーブのまわりに座り、現役時代に戻って来たように感じたものです。この

手白への参加そして巻き割りの斧を振り上げたことが、単純な私になため会に戻ってくるきっかけを与えてくれたような気がしています。さてなため会ですが、2年後の2016年2月には創部80周年、同じく10月には針生山荘の落成30周年を迎える大切な時期を控えての就任ということで、いささか緊張しております。運営委員会のメンバーも最近では若いOB諸氏が熱心に参加しており心強い限りです。また電子メールやWebを活用により、多くのOBが参画することも可能となっております。今後とも母体であり、頼もしい部員増加が続く現役のバックアップ、なため会の会員交流と会員サービスのさらなる向上に向けた活動を引き続き推し進めてまいります。

さて最近の私の山歩きの方ですが、現役時代から体力勝負で向かうところ敵なしの自分にとつて、山でけがをするのは自己管理の出来ない他人事と思っ歩いてきました。ところが飯豊山石転び雪渓に出かけた際、手前の赤滝で転倒、たいしたこともなかつたところのまま雪渓を突き上げ稜線の小屋まで到着したのですが、左手が手袋をはずすとグローブのように腫れています。その時点でも只の打撲だろうとタカをくくって下山、帰宅してから念のため医者に行つてレントゲンをとってみると「はい骨折です、手術のためすぐに入院してください」との診断。生まれて初めて入院となつてしまいました。皆さまも過信せぬようくれぐれもご注意を。

なため会幹事長に就任しての抱負はと聞かれ、それは現役の支援とOBの親睦と答えてしまおうとそれで終わってしまいましたが、永年各種会合に出席して数多くの卒業生を見るにつけ、OB会に何らかの係わり合いをもつ存在理由があるのではと思っています。現役を卒業しても、在籍時に感じていた熱意をそのままに、それぞれの仕方でワンダーフォーゲルと関わってきた個人の集まりがなため会なのではないでしょうか。先輩方をはじめ多くの方々のご尽力のおかげで、常に輝いてきました。私達は、このことをしっかりと自覚し、誇りと責任を持って日々の活動に全力で取り組んでいく必要があると思っています。MWも80年を迎えるわけで、この間には色々な出来事があったかと思いますが、この80年間続いたということそが大きな価値があるのではないかと思っています。これこそが伝統といえるのかもしれませんが。

二〇一四年 情断会(昭和五〇年度卒) 初夏ワンデルング 三頭山

BN 788 原田 博文

参加者…小田野、宮澤、小川、原田
まさに五月晴れ、快晴の五月一日(土)。
中央本線上野原駅に空の青さにも負けないくらい鮮やかなライトグリーンのTシャツを着たおじさん四人が降り立った。そう、手白

五〇周年記念のTシャツを着た情断会のメンバーである。今回は高島が仕事で欠席のため小田野、宮澤、小川そして原田の四人で三頭山に登ることになった。

三頭山は四〇年以上前、一年の時の新人指導W(今は実施していないようだ)で登った山だが、今回のワンデルングを企画した小生の記憶の中にはキャンプ場のような所でテント講習をしたことと奥多摩湖のドラム缶橋を渡ったことくらいしか無い。企画するにあたり改めて地図を見ると「都民の森」からなら3〜4時間で行って来られる山のようにだが、今回は情断会夏合宿(北アルプス)のトレーニングもかねて、郷原から奥多摩湖へ抜けるロングのためのコースを選択。

上野原駅前のバス停はすでにたくさんのハイカーで混雑しており、我々も飯尾行のバスに乗っていざ出発。五〇分ほどバスに揺られて登山口の郷原バス停に到着。ほかのハイカーもみんなここで降りるものと油断していたら誰も降らない。運転手に促され、我々四人だけがあわててバスを降りた。

サクラソウや芝桜が咲くのかな集落を抜けイノシシ除けゲートをくぐると山道になる。手入れの行き届いた登山道は明るく日当たりが良い。初夏のような日差しですぐに汗ばんできたが新緑の中の道はとてもいい雰囲気だ。尾根道の南東側はよく視界が開け、鶴川を隔てた権現山の尾根の背後からは真っ白な富士山が頭を見せ始めた。

歩き始めて小一時間ほどで、ベンチのある見晴台に着いた。眼下には西原の集落が見える。背後に屏風のようにそびえる権現山とその向こうには富士山という絶景ポイントである。

見晴台から一五分ほどで三頭山と数馬方面との分岐。数馬方面に向かうとすぐに西原峠に出た。まずは目の前の榎寄山に上る。ふと南を見ればここも富士山の絶景ポイントである。榎寄山を下り笹尾根伝いに三頭山に向かう。とても気持ちの良い尾根道だ。本日の天候とも相まって企画者への賛美の声上がる。宮澤の口数が多いところを見ると皆好調なのだろう。

やがて木々の間から三頭山が姿を見せ始めた。三頭山を目の前に尾根道は一旦高度を下げていく。下がりきったところが「クメケノタワ」。要するに尾根の弛んだところという意味だろう。いままでの気持ちのいい道から一転、ここから一気に急登が始まった。

ここまではほとんど他の登山者を見かけることはなかったが、手前にある大沢山あたりからすれ違う人が多くなってきた。都民の森から登り始めた人達だろうか。大沢山を過ぎると、三頭山を目前にしなが避難小屋のあるムシカリ峠まで一気に下る。せっかく高度を稼いだのに損した気分である。避難小屋からは丸太の階段になっており、上りきると三頭山の頂上(西峰)である。広い山頂は多くのハイカーで賑わっていた。居あわせた人にシャッターを頼んで記念撮影。お揃いの手白



Tシャツを褒めていただいた。いったん鞍部の御堂峠まで下り、登りかえして三頭山最高峰の中央峰と三角点のある東峰を踏んで「三頭」を揃い踏みとした。

ふたたび御堂峠に戻り下山開始である。鶴峠分岐を通過し入小沢の峰あたりまでは気持ちの良い尾根道であるが、入小沢の峰を過ぎると道の様相は一変し、とんでもない急坂となる。ところどころザレているところもあり慎重に下る。下りだけでなくヌカザス山、イヨ山の間には大きな登り返しもある。新人指

導Wの時はキスリングを背負ってどんな気持ちで歩いたのだろうか？イヨ山を過ぎると木々の間から奥多摩湖が見えるようになる。道はそれなりに急坂でしつかりしており、程なく奥多摩湖周遊道路に降り立った。猛スピードで走り抜ける車やバイクに恐怖を感じながら車道を少し歩き、遊歩道に入ってドラム缶橋に到着。「ドラム缶橋」とはいうものの今は立派なフロートに支えられた浮橋になっていた。対岸に渡ってバス停に着いたのはバスが来る約二〇分前。ほぼ企画どおりであった。まだまだ標準タイムで歩けることに一安心。コースリーダーのペース配分が良かったのか？小田野ご苦労様。奥多摩駅の生ビールはうまかった。

続々・最後から八番目の恋を

探しに鎌倉へ

BN 888 関口 健二

ひよんな事から藤沢転勤で6月から茅ヶ崎に住んでいる(いろんな意味でいい所だ、勿論単身ですが)。

かみさんが「結婚してから鍛えた」と言うだけあって、鍛えられた？炊事洗濯が苦にならず、「二度目の東京」を生活費が続く限り学生時代よりもエンジョイ中。

さて6月も半ば。湘南に居て「鎌倉の紫陽花」を見逃す手はない。ゴロリと小説でも読

みたいところだが心と身体に渴を入れ、ルン気分で「いざ鎌倉あゝ」「北条時頼様は何処おー？」と佐野源佐衛門気取り。

北鎌倉駅↓名月院↓銭洗弁天↓鎌倉大仏↓長谷寺↓鶴岡八幡↓報国寺↓鎌倉駅。かつ、完璧プランじゃ。

9..20北鎌倉下車。「何じゃこの人の波は!?今日は何曜日?」間違ひなく金曜日。道路両側にズラリと繋がり歩く人の姿にゲンナリ。「風情は何処おー」

あじさい寺「名月院」。ここも人に押されるように進み、500円払って入山。写真を撮り捲る人、人、人。そして人。パンフレットのような写真は開園中無理で、皆さんマクロ撮影に余念がない(人が写り込まないように花のアップばかり)。円窓も「これこれ」とシャッターを切られるが向こうからも撮影されている状態。一回りして銭洗弁財天へ。

ここも人、人、人。ここもサツと通過。次は大仏様だ。鎌倉名物切り通しを抜け、歩け。

拝観料払って見上げれば、「おおっ！背景とのマッチングが絶妙だ」。思わず合掌。ここにおわしてこその大仏様。いいねえ。解放感とかさつきまでツマツマしていた自分が恥ずかしい。大仏様ありがとう。

ちようどランチタイム。大勢の小学生が弁当広げておりました。今日はお茶持つて出るのを忘れ、弁天様から気になっていた「鎌倉ビール」に大仏様売店で挑戦。中に腰掛け明



るい外見ながらゆっくり味わう。嗚呼至福の時。が、さして旨いものでなし。お店の中から外を見ていると寅さんになった気分。是非お運びを。

気分新たに長谷寺。ここの人出は多いもの。入場制限を実施しており只今の待ち時間15分（6月21日土曜日は2時間待ちだったそうです）。『なるほどそういう事か』。どういう事かはご自分でお参りされたし。突然海が開

け、皆さん「わぁー!」。いいねえ。心洗われる。ここは名残惜しい。無理な話だが「人が居ない時に佇んでみたいお寺さん」だ。四季を通して花が楽しめるらしい。教官殿に見せたい風景だが、かみさんにすれば「花好きの女同士」で来るのが理想だろう。まあ男同士で来る所でないな。名残惜しく八幡様へ。鎌倉方面へ向かったつもりが極楽寺駅。ハイ、間違えました。っと。地図持っていないと初めての土地は厳しい。江ノ電に乗って鎌倉駅まで。小町通りは避け、表参道を行く。徐々に見えてくる堂々たるお姿、再訪を感謝し礼拝。八幡様はサラリとお参り。さて報国寺。

20分ほど歩くが山門通っただけで雰囲気あり。拝観料を払って「竹の庭」。木洩れ日、鳥の囀り、吹き抜ける風、手入れが行き届いた庭、日本人でよかった。別料金で茶席も堪能。「和敬静寂」。竹と風のハーモニーを聴きながら一服するもよし。是非に、是非に。多くの街が出来、栄え、そして廃れ。

八百年生き抜いてきた街「鎌倉」。何が人々を魅了すのかは分からぬままだが、鎌倉の神社は京都に比べ「説教臭くない」「抹茶臭くない」と感じるのには私だけだろうか。おーい、飲むのもいいけど「明るい街」を歩くのも素敵だぞう。歩けるうちに歩こう。

次の計画を着々と練る関口なのであります。終わり。

八番目の恋? そんなもんあるかい。テレビ、テレビ。

第50回なため会ワンデルング 箱根駒ヶ岳Wに参加して

BN 835 猪狩 稔

5月の最後の土曜日、天気は良く暑くなるとの予報。午後からは大気が不安定になり雷雨もあるそうだ。

新宿駅西口地下の小田急線改札にはまだ誰も来ていなかった。私はいつも一番早く到着してしまいくせがある。次にいらしたのはBN451山田祥二ご夫妻。そして次は濱田企画部長。奥倉OB、秋元OB、杉山OBそして丸山貞二君の姿も見えました。ご挨拶などしているうちに大分集まって来たのだが、全員のクーポン券を持っている平田君がなかなか来ない。彼は自分の娘さんの結婚式当日にもかかわらず、幹事会・会員総会に出席してくれるほどの大物なのだ。間もなく遠くからにこしながらやって来た。これで一安心。最後は時間びつたりと鈴木元典さんがやって来た。まだ中央特快が走っていない時間であることを知らずに来てそうとう焦ったそうだった。こうして新宿駅集合組は無事全員揃ったのである。

小田急線急行電車は小田原乗換で箱根湯本駅までかなり乗りである。湯本駅で飯村OB、椎橋OBと合流し、バスに揺られること1時間。箱根園で地元箱根在住の水落OBが今か今かとお待ちかねだ。ご挨拶もそこそこ



に駒ヶ岳ロープウェイに揺られること5分新緑の中を進むと駒ヶ岳山頂に到着だ。

いよいよ箱根外輪山の最高峰神山へ向けて出発！丸山君のコースリーダーで軽快に進む新緑や遅咲きのつつじなどが目を楽しませてくれる。右に神山という分岐を分けてしばらく進み、もうそろそろ登りに掛らなければならぬのに道は一向に登りにならない。

どうやら巻道を来てしまったようである。折しも遠くで聞こえていた雷鳴がだんだん近くなり、空も真つ黒な雲に覆われた。か

なり下って来ていたので分岐まで引き返したのでは危険との判断で神山山頂は断念し、雷に追われるように大涌谷へ急いだ。何とか全員無事到着。水落OBの差し入れて名物の温泉黒玉子をいただいた。子供のころ以来の懐かしさを覚えた。

早速、バス停に向かうと雷のためロープウェイが運休になってしまい、バスに乗客が集中したのと駐車場へ来るマイカー渋滞で1時間以上予定をオーバーしての出発となつてしまった。頭をよぎつたのは宴会時間と電車の指定席の時間。濱田企画部長の交渉により、宴会時間と帰りのロマンスカーの時間を2時間遅らせてもらったことにより本日のメインイベント「箱根湯寮」での楽しい宴会は温泉も含めてゆつくりと楽しむことができたのである。ご参加の皆様には大変お世話になりました。今回全体を通していっなくな静かだったと思つたら、常連の大賀OB、諏訪本OB、小田野OBが欠席だった。気のせいだろうか？

奥鬼怒山荘OBワークに参加して

BN 594 秋元 道別

先週末OB11名、現役5名で初めての手白ワークに参加して来ました。6/6日9時今のイオンに集合。3日分の食糧を買い出し、途中日光市栗山支所に寄り、奥鬼怒スーパール道の通行許可証をもらう。夫婦淵駐車場で

食糧、ガソリン等資財などを分担してパッキング後昼食。林道途中の手白沢橋に車を駐車して明大奥鬼怒山荘を目指しました。いきなりの直登が400メートルくらい続き、息き絶え絶えで木々根つこにしがみつきながら上ると通称明大テラスと呼ばれる鞍部に到着。そこからはトラバース気味の快適な山道になりブナの原生林の中を小雨の中、しつとりとした山歩きを堪能しました。その後の作業内容は杉山君からの添付報告書参照下さい。1日の作業が終了すると5時頃からディナータイムが始まります。みな思い思いにストーブを囲みストーブの火加減をする人、自慢のコーヒーを点てる人、背負つて来た焼酎をちびりちびりと始める人、みんな山荘の雰囲気浸っているようでした。

参加した現役は4年生が諏訪部主将と鈴木君、3年生前川君、2年生は頑張り屋の女子部員の松田さん、1年生は新人養成が終わったばかりの青木君の計5名。現役部員の性格や長所、短所を知り尽くして、調理の采配をする諏訪本監督が素晴らしかったです。6日の夜はおでん、7日目はイワシの丸焼き、8日目の最後の食事は絶品でした。お母さんが四川省出身という4年生の鈴木君が慣れた手つきで中華鍋を振って作ってくれた激辛マーボ豆腐、最後に監督自ら山荘の近くで採つて来た山菜の食材を揚げてくれた天ぷらは最高でした。タラの芽、山ウドのわかめ、山ウドの若葉、他にスーパで仕入れた茄子、



カボチャサツマイモ、アスパラなどのヘルシー料理を堪能し、翌朝は日光金谷ホテルのパンとジャムにスーパージョイントをいただきました。食事が終わると反省会とミーティング、その後現役の歌唱指導という名目で山の歌の合唱が始まります。現役さんと一つになって合唱しているOB諸兄の楽しそうな顔、顔、顔。ろ

れつが回らなくなるOBが始めると発電機で灯された蛍光灯が消され、ろうそくが灯されます。遅くまで山談義をしている人も三々五々寝床につき10時過ぎにはいびきの合唱です。善さんの監督時代では考えられない事です。が監督自ら調理場に立ち自慢の腕を奮って現役やOBとの交流に努めている諏訪本監督の姿を見て明治のワンダーフォーゲル部は当分安泰だなーと感じました。昨日杉山君や現役で補修してくれた手白沢温泉への五八新道を通り、手白沢温泉に挨拶、林道を下って加仁湯に到着。椎橋OB、前田OBと同期の高橋OGが加仁湯の玄関前で出迎えてくれ、風呂上りの全員にハーゲンダッツのアイスクリームをおごってくれました。

50年前にみんなで建てた明大奥鬼怒山荘は今日まで営々と引き継がれて来たOB諸兄とその時その時の現役諸君の熱意と努力と情熱に守られて今日がある。そんな思いを強く、強く感じた有意義な合宿でした。皆さんありがとうございました。

四年間の軌跡

BN 1276 西村 怜

本年度より晴れて明治大学体育会ワンダーフォーゲル部OBとなった西村怜です。諏訪本監督よりワンゲルでの四年間の思い出を書けとの御命令を承ったため、借越ながら私の四年間の活動をここに記していきたいと思

ます。

私がそれまで縁のなかったワンダーフォーゲル部に入るようになったのは、新人勧誘期間に先輩方に優しくしていただいたからでした。登山への意気込み等は微塵もありませんでした。

一年生の初めての合宿、新人養成合宿は雲取山でした。最初はザックすら自力では背負えず、行く前から数十キロある荷物と憂鬱な気分を肩にぶら下げていました。合宿が始まってからも、やれ朝食の準備だの、やれテントをさつさと片付けるだの、自分が何をしているのか分からないまま終わりました。

一年生の頃は天候に恵まれず、夏合宿では台風が煽られながらの山行でした。そのときの暴風雨のせいで剣山・石鎚山には悪い印象しかありません。

それでも何故ワンゲルを辞めなかったのかというと単に逃げられなかったからです。これを読んでいる方々の時代がどうだったかは存じませんが、私の場合、初期装備費用等で十萬近くかかりました。当然部に借金をする形になりました。そんな金を使っておきながら四力月弱で辞めるなど私には出来ませんでした。辞めなかったというより辞められなかったのです。

二年部員の時は、東日本大震災があり色々ごたごたしていました。三月十一日、奇しくも部の総会の日で、スーツに着替えている最中に揺れが来たことを覚えています。それ

でも「総会に行かなくては」と思っていた辺り、相当ワンゲル脳に毒されていたのでしよう。

しかし二年部員のときは楽しかった記憶はありません。晴れ渡った金峰山、夏のトムラウシ縦走と初めて山が素晴らしいことに気付きました。特にトムラウシ縦走は人生で最も有意義な時間でした。白雲岳のサイト地から見た、遥か後方にぼつりと見えるトムラウシの山頂を見た時、自分はあそこから歩いてきたのか、あんなに雄大だった山がもうあんなに小さく見えるのかと色々な思いが巡ったことを覚えています。今でも一番好きな山はトムラウシです。

二年になれば当然最後にあの合宿もあります。私の代の正部員養成合宿、通称丸正は男鹿岳でした。出発前に台風が直撃し、日程が短くなり、「ああ残念だ」と言いながらガッツポーズを心の中で決めていく丸正前でした。結果的に藪漕ぎで死人の顔になりながらも、同期全員で登る初めての合宿ということもあり、それなりに得る物を感じながら踏破することができました。

三年生になってからは大変でした。二年生時にちゃらんぼらんな部員に成り果てていたので、正部員としての自覚が足りないままでスタートになりました。春合宿では慣れない積雪で道を見失い、一日ビバークする羽目になりました。夏合宿の屋久島ではまたもや台風が直撃し、他班部員のあわや遭難という事態にもなりました。そういう緊急時に自分

が迅速な行動が出来ていなかったことが悔やまれます。

そんな中でリーダー合宿でしたが、これ自分でも驚くほどすんなり踏破できました。沢で足を滑らせて歯が欠ける部員がいたり、突然雷が降ってきたりとアクシデントはありましたが、自分に自信を持つことが出来る合宿となりました。色々要因はありますが、やはり一番は同期に恵まれたという点です。私の代は疲れていても仕事を投げたり、理不尽に怒ることがなかったので、登ってい



てストレスが溜まることがあまりありませんでした。そこが藪山でも気持ちよく、というのは言い過ぎですが、前に進むことができた要因だと思っています。

そんな同期と一緒に遂に四年部員となりました。ここでようやく山が好きになりました。私は一班リーダーを務めさせていた、だいたいのですが、合宿企画を立てていく中で山の個性を調べていくのが楽しくなったのです。今までは先輩の企画に付いて行くだけの受動姿勢だったのが、自分から登りにいく山を決めるという能動姿勢に変わったことで、登りたい山が一気に増えました。私自身はあまりリーダーに向いているとは言えず、班員に迷惑をかけることも多々ありましたが、自分の行きたい山に行くことができたので満足です。

人生を変えられるほどに濃密な時間をワンゲルと過ごした四年間でした。一言でまとめあげることは難しいですが、ワンゲルで過ごした時間は非常に有意義なものでした。長々と書きましたが、これからの明大ワンゲルの振興を願いつつ、ここで締めさせてもらいます。ここまで読んで下さり有難う御座いました。

訃報

BN 377 梅田 博 O B が平成25年12月29日に
逝去されました。

ここに謹んでお悔やみ申し上げます。

平成25年度 卒業生 歓送迎会

■日 時 平成26年3月1日(土) 13時00分～15時30分

■場 所 リバティタワー23F 岸本・宮城ホール

■式次第 (敬称略)

13:00 開 会

部長先生挨拶

なため会会長挨拶

監督挨拶

送 辞

答 辞

バックル授与

13:30 乾 杯

祝 宴

写真撮影

校歌斉唱

15:30 閉 会

■出席者：79名

●卒業生：9名

1273 南 隼人 1274 浜口小百合 1275 渡邊 弘樹 1276 西村 怜 1277 坂巻 裕太 1278 金子 大修

1279 木村 和頼 1280 佐藤 岳 1281 安井 美穂

●なため会会員：40名

181 新村 貞男 339 足立 康弘 392 内田 吉成 395 中山 光史 455 飯村 朋圀 477 天野 俣明

487 鈴木 康弘 489 野村 司 495 深田 裕弘 501 前田 芳弘 505 椎橋 稔 525 志村 和久

532 鈴木 正彦 558 奥倉 勇一 566 松本 栄作 597 大洞 聰 601 池上 勝彦 610 石田 正

661 大賀 徹雄 717 住田 孔一 728 横尾 廣志 751 諏訪本充弘 764 高橋 寿子 775 小田野義之

788 原田 博文 792 柳川 俊泰 795 濱田 稔 817 和賀井英雄 835 猪狩 稔 842 金井 良博

871 平田 正博 897 山下 仁志 898 小林 香織 1006 安部 好洋 1064 井上 堅一 1115 上原 誠

1250 鹿村 亮介 1264 安田 光輝 1267 山脇 英明 2120 鈴木 元典

●現役：30名

主将 諏訪部貴亮 主務 鈴木 優花 4年 荒澤 裕司 4年 内山 嘉穂 4年 勝田 三月 4年 上出 陵

4年 鴨志田岳大 4年 鈴木 竜一 4年 田口 和昌 4年 中沢 公大 4年 馬場 大志 4年 馬場 隆彰

4年 眞野 祐介 4年 山崎 友也 4年 渡辺 千佳 3年 宇津木俊亮 3年 白井 真彦 3年 本行 優生

3年 前川 晃慶 3年 舩田献太朗 3年 増田 拓也 3年 望月健太郎 2年 池田 将太 2年 今井 悠貴

2年 近藤 諒生 2年 佐藤 光時 2年 陣内 亜美 2年 高橋辰之介 2年 永田 真帆 2年 松田彩友美



暑中御見舞申し上げます。



テント寄贈セレモニー（於：卒業生歓送迎会）

羽部 隆	中田 弘	小林 正男	網中 義勝	鈴木 康弘	野村 司
長嶋 罔芳	細川 紀男	池谷 勝喜	原 喜啓	木島 敏夫	深田 裕弘
中村 好一	関口 慎吾	澤井 隆弘	吉田善太郎	前田 芳弘	佐々木恒雄
平山 孝	椎橋 稔	西村 偕子	笹治 禮子	樋口 守	本郷 義英
野口 洋	山本 務	仁田 猛	浅野 敏雄	佐藤 匡宏	松岡 守
佐藤 昭	鷺津 博昭	後藤 秀子	原 紀枝	森谷 愛子	管野 隆夫
中川 新子	高橋 寿子	岡野 昭子			

昭和 38 年度卒業 辰巳午の会

テント贈呈式

BN 501 前田 芳弘

昭和38年10月6日、奥鬼怒山荘の落成式を祝い、辰巳午の会同期は卒業しました。50年後、平成25年10月6日、山荘50周年記念式典が現地で盛大に行われました。

平成26年3月31日、我々辰巳午の会も上野公園内の料亭韻松亭で30名が集い、春爛漫の桜を愛で一年ぶりに再会を祝し語り合いました。同期の者は、社会に出て皆それぞれの道を歩み、人生の終盤にさしかかった時、「ワングルにいた4年間がその後の人生にかなりの影響を与え、今の自分があるのではないか。その感謝を込めて記念品を贈ろう」と相談したところ、快く承諾していただき、当日までに多大な寄付金が集まりました。

まず諏訪本監督から現役に今一番欲しい物を聞くと、部員数も増えテントが足りないと言われました。そこで8人用テント2張りを贈ることとし、3月1日、卒業生歓送迎会の席上、記念品贈呈式が行われました。当初は、諏訪本監督と現役に部室で渡すつもりでしたが、いつしか話が大きくなり、大イベントに発展してしまい、びっくりしています。我々辰巳午の会にとりまして誠に嬉しい事です。

紙面を借りまして厚くお礼申しあげます。これからもMWVの今後益々の発展を心からお祈り申し上げます。

明治大学体育会

ワンダーフォーゲル部なため会

平成二十五年度 幹事会・会員総会

五月二十四日(土) 十二時〇〇分

～ 十四時三〇分

於…リバティタワー 23F
出席者…会員39名 学生7名

幹事会

一、審議事項

(一) 平成二十五年度事業報告 小田野幹事長報告

・ 原案通り承認されました。

(二) 平成二十五年度決算報告 上原財務副部長報告

・ 原案通り承認されました。

(四) 平成二十五年度監査報告 前田監事報告

・ 原案通り承認されました。

(四) 平成二十六年年度組織案 小田野幹事長説明

・ 原案通り承認されました。

(五) 平成二十六年度事業計画案 横尾新幹事長説明

・ 原案通り承認されました。

(六) 平成二十六年度予算案

安部事業運営部副部長説明

・ 原案通り承認されました。

(七) 黒米豊氏入会の件

申請者…昭和37年度卒業生一同(華の三七の会)

天野会長

・ 承認されました。

二、報告事項

・ 現役の活動状況報告

諏訪本監督報告

会員総会

十二時三〇分～十四時三〇分

12…30

開会

会長挨拶

進行 上原 誠

天野会長

幹事会報告

横尾新幹事長

※幹事会の決定事項を報告
(なため会規約第10条)

乾杯

歓談

主将 諏訪部 貴亮

なため校歌 斉唱

14…30

閉会



天野会長

なため会 組織 (平成26年4月～平成27年3月)

■役 員	会 長	天野 倣明(477)			
	副会長	足立 康弘(339)	内田 吉成(392)	紀井辰之助(423)	
		鹿島信太郎(468)	鈴木 正彦(532)		
	幹事長	横尾 廣志(728)			
	副幹事長	小田野義之(775)			
	監 事	前田 芳弘(501)	池田 陽一(527)		
	駿台体育会理事	志村 和久(525)	奥倉 勇一(558)		
	参 与	奥倉 勇一(558)	横手 一男(683)	濱田 稔(795)	
	監 督	諏訪本充弘(751)			
	コーチ	井上 堅一(1064)	尾崎 剛史(1174)	杉山 文啓(1226)	
		杵澤 裕子(1258)	安田 光輝(1264)		
■部 会	総務部	(部長)小田野義之(775)	(副)原田 博文(788)	(副)平田 正博(871)	
		(副)日暮 浩美(915)	(副)松井 法一(974)		
	財務部	(部長)柳川 俊泰(792)	(副)上原 誠(1115)		
	広報推進部	(部長)井上 稔也(879)	(副)加藤 章一(845)	鈴木 康弘(487)	
		一色 雅男(570)	池上 勝彦(601)	石井 克太(614)	
		猪狩 稔(835)	日暮 浩美(915)		
	企画振興部	(部長)濱田 稔(795)	(副)大賀 徹雄(661)	奥倉 勇一(558)	
		丸山 貞二(859)	平田 正博(871)	山下 仁志(897)	
		井上 堅一(1064)			
	山小屋管理部	(部長)杉山 裕(705)	(副)植木 進(846)	(副)唐川 拓三(850)	
		小田野義之(775)	山口 直樹(1017)		
	情報管理部	(部長)住田 孔一(717)	(副)和賀井英雄(817)	猪狩 稔(835)	
		安部 好洋(1006)			
	事業運営部	(部長)猪狩 稔(835)	(副)安部 好洋(1006)		
■ブロック世話人					
◎は正、○は副					
第1	◎飯村 朋圀(455)	○篠崎 徳量(241)	○吉田 修(345)	○中山 光史(395)	
(S14-37卒)	○内田 吉成(392)	○紀井辰之助(423)	○鹿島信太郎(468)		
第2	◎池田 陽一(527)	○前田 芳弘(501)	○松本 栄作(566)	○秋元 道別(594)	
(S38-43卒)	○和田 満(627)				
第3	◎杉山 裕(705)	○野島 一雄(676)	○住田 孔一(717)	○横尾 廣志(728)	
(S44-51卒)	○柳川 俊泰(792)				
第4	◎丸山 貞二(859)	○加藤 章一(845)	○唐川 拓三(850)	○遠山 高広(858)	
(S52-58卒)	○井上 稔也(879)	○山下 仁志(897)			
第5	◎松井 法一(974)	○池本 直人(956)	○成田 幸治(976)	○井上 堅一(1064)	
(S59-H5卒)	○大村 研(1086)	○上原 誠(1115)			
第6	◎中村 央(1156)	○中村 宏之(1196)	○藤代 達也(1202)		
(H6-25卒)					
■顧問	杉浦 忠夫(600)	坂本 清(700)	田村 敏夫(800)	新田 功(1100)	
■部長	長峰 章(1000)				
■相談役	新村 貞男(181)	小林 碧(197)	島林 順三(228)	和田 有弘(237)	
	篠崎 徳量(241)	大内 善一(299)	西村 幸一(313)	吉田 修(345)	

平成25年度 なため会決算報告 (自25.4.1 至26.3.31) 財 務 部

1. 会計報告

●一般会計

収入の部	予 算 額	決 算 額
前年度繰越金	5,805,096	5,805,096
なため会費	1,650,000	1,443,000
利息収入	10,000	16,748
諸収入	80,000	795,741
合 計	7,545,096	8,060,585

支出の部

【活動費】

(総務部)

会議案内通信費	100,000	13,280
薫風運送費	170,000	152,930
慶弔費	70,000	40,210
事務用品費	5,000	11,680
名刺作成費	5,000	2,300
明大スポーツ新聞購入費	10,000	0
住所不明調査費	5,000	0

(財務部)

会費集金手数料	50,000	45,080
(広報推進部)		
薫風制作費	190,000	135,660
薫風制作通信費	10,000	1,820

(企画振興部)

なため会ワンデルング費	0	0
なため会ワンデルングマネージ交通費	20,000	7,769

(山小屋管理部)

山荘備用品費	0	0
ワーク参加者補助費	40,000	0

(情報管理部)

ホームページ維持管理費	10,000	10,210
プロバイダー更新費	0	0

(事業運営部)

会場使用料	80,000	76,230
印刷代	5,000	0
親睦旅行会マネージ交通費	20,000	0
会費納入推進費	65,000	0

【補助費】

現役懇親会参加補助費	100,000	36,000
コーチ助成金	150,000	0

【渉外費】

駿台体育会費	100,000	80,000
歓送迎会御祝金	30,000	30,000
監督他部交流費	0	0

【その他費用】

バックル製作費	0	0
お見舞金	0	10,000
なため会旗	60,000	23,310
会員名簿製作費	0	0
奥鬼怒山荘落成30周年記念事業費	700,000	910,665

【予備費】

支出合計	2,095,000	1,587,144
収支差額	5,450,096	6,473,441

会費内訳

年会費	3,000	3,000
口数	500	481
合計	1,650,000	1,443,000

次年度繰越金	5,450,096	6,473,441
OB基金	4,831,000	4,831,000
東日本大震災義援金前年度繰越金	252,160	0
総 資 産	10,533,256	11,304,441

●なため会総資産

普通預金		3,669,478
定額貯金		7,631,000
現 金		3,963
合 計		11,304,441

上記の通り報告致します。 財務部 柳川俊泰 (792)
金井義博 (842)

2. 監査報告

平成25年度決算報告を監査した結果、その適正なことを確認しましたので、報告いたします。

監 事 前田芳弘 (501) 大賀徹雄 (661)

平成25年度事業報告

1 重点目標

- 1 会員サービスの向上
- 2 現役交流の推進
- 3 財政健全化の推進 (会費納入の強化)

2 活動報告

- 1 H25・4・9(火) 運営委員会 (体育記念室)
- 2 H25・4・16(火) 奥鬼怒山荘落成50周年記念事業
第4回実行委員会 (体育記念室)
- 3 H25・4・23(火) 駿台体育会第1回理事会 (アガミ・コモン2F)
- 4 H25・4・25(水) 2012年度会計監査 (アミ)
- 5 H25・5・14(火) 運営委員会 (体育記念室)
- 6 H25・5・16(木) 奥鬼怒山荘の水場修繕調査
- 7 H25・5・25(土) 第46回なため会W
(大マテイ山～小菅の湯)
- 8 H25・5・28(火) 幹事会・総会 (リパティタワー23F)
- 9 H25・5・31(金)～6・2(日)
奥鬼怒山荘ワークワンデルング
- 10 H25・6・11(火) 運営委員会 (体育記念室)
- 11 H25・6・19(水) 駿台体育会総会 (リパティタワー23F)
- 12 H25・7・9(火) 運営委員会 (体育記念室)
- 13 H25・7・27(土) 薫風47号・会費納入のお願い他発送
(体育記念室)
- 14 H25・8・31(土) 第47回なため会W (筑波山～筑波の湯)
- 15 H25・9・10(火) 運営委員会 (体育記念室)
- 16 H25・10・5(土) 第48回なため会W
(根名草山～手白沢温泉)
- 17 H25・10・6(日) 奥鬼怒山荘落成50周年記念式典
(奥鬼怒山荘)
- 18 H25・10・8(火) 運営委員会 (体育記念室)
- 19 H25・10・8(火) 駿台体育会第2回理事会 (大学会館3F)
- 20 H25・10・21(月) 駿台体育会親善ゴルフ大会
(常陽カントリー倶楽部)
- 21 H25・11・12(火) 運営委員会 (体育記念室)
- 22 H25・12・4(水) 大学役職者と駿台体育会との懇親会
(リパティタワー23F)
- 23 H25・12・21(土) 奥鬼怒山荘落成50周年の集い
(リパティタワー23F)
- 24 H26・1・8(水) 運営委員会 (体育記念室)
- 25 H26・1・25(土) 薫風48号・会費納入のご案内他発送
(体育記念室)
- 26 H26・1・25(土)～26(日)
駿台体育会と体育会監督会との
合同研修会 (箱根湯本ホテルおかだ)
- 27 H26・2・1(土) 第49回なため会W (足和田山)
- 28 H26・2・10(月) 運営委員会 (体育記念室)
- 29 H26・3・1(土) 平成25年度卒業生歓送迎会
(リパティタワー23F)
- 30 H25・3・11(火) 運営委員会 (体育記念室)

平成26年度 なため会予算
(自26.4.1 至27.3.31) 事業運営部

1. 一般会計

収入の部		
前年度繰越金	6,473,441	
なため会費	1,650,000	3,000×550口
利息収入	10,000	
諸収入	80,000	
合 計	8,213,441	

支出の部

【活動費】 (総務部)		
会議案内通信費	100,000	総会は会員全員に通知
薫風運送費	170,000	薫風に関わる運送費(1、7月)
慶弔費	70,000	
事務用品費	35,000	名簿管理用ソフト購入費30,000円
名刺作成費	10,000	
明大スポーツ新聞購入費	10,000	薫風同封(5,000円×2)
住所不明調査費	5,000	
(財務部)		
会費集金手数料	50,000	
(広報推進部)		
薫風制作費	190,000	20ページ(95,000円)×2(1、7月)
薫風制作通信費	10,000	
(企画振興部)		
なため会ワンデルングマネージ交通費	20,000	
(山小屋管理部)		
奥鬼怒山ワーク参加者補助費	40,000	小屋代1,000円×2泊×15、 入浴300円×15、 プロバン1泊2,000円×2日、他
(情報管理部)		
ホームページ維持管理費	10,000	
プロバイダー更新費	0	2012年度に36ヶ月分支払済み
ホームページ改定費	50,000	
(事業運営部)		
会場使用料	160,000	幹事会・総会、幹事会・ 忘年会、歓迎会会場使用料 幹事会等の資料印刷代
印刷代	5,000	
親睦旅行会マネージ交通費	20,000	
会費納入推進費	65,000	会費未納者の振り起こしにかかる 費用(主に郵送代) 80円×400名×2回 プロジェクター、スクリーン
映像機材購入費	100,000	
【補助費】		
現役懇親会参加補助費	100,000	会員総会、忘年会参加補助
コーチ助成金	150,000	コーチ活動にかかわる助成金
【渉外費】		
駿台体育会費	100,000	駿台体育会理事の参加活動費
歓送迎会御祝金	30,000	
【その他費用】		単年度の支出
バックル製作費	0	
お見舞金	0	
なため会旗	0	
会員名簿製作費	0	5年に1回の改訂(次回は2017年度)
【予備費】	100,000	
支出合計	1,600,000	
収支差額	6,613,441	
次年度繰越金	6,613,441	
OB基金	4,831,000	
総 資 産	11,444,441	

2. OB基金

藤岡家・鈴木家・柴田家寄付金	1,083,000
山小屋募金他	3,257,000
校友会館(紫紺館)建設基金	491,000
	4,831,000

平成26年度事業計画

1. 重点目標

会員サービスの向上
現役交流の推進
財政の健全化(会費納入の強化)

2. 活動計画

- 4月8日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 4月23日(水) 駿台体育会第1回理事会(アガミ・ミコン)
- 5月1日(木) 2013年度会計監査(アミ)
- 5月13日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 5月24日(土) 幹事会・総会(リパティタワー)
- 5月31日(土) 第50回なため会W 箱根(神山、駒ヶ岳)
- 6月6～6月8日 奥鬼怒山ワークワンデルング
- 6月10日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 6月18日(火) 駿台体育会総会(リパティタワー)
- 7月8日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 7月26日(土) 薫風49号・会費納入のお願い他発送
(体育記念室)
- 8月30日(土) 第51回なため会W(西沢渓谷)
- 9月9日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 10月7日(火) 駿台体育会第2回理事会
(大学会館3F)
- 10月14日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 10月20日(月) 駿台体育会親善ゴルフ大会
(久能カントリークラブ)
- 10月25～26日 なため会親睦旅行会・第52回
(土・日) なため会W(赤城山・音羽倶楽部)
- 11月11日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 12月3日(水) 大学役職者と駿台体育会
との懇親会(リパティタワー)
- 12月13日(土) 幹事会・忘年会(リパティタワー)
- 1月13日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 1月24日(土) 薫風50号・会費納入のご案内他発送
(体育記念室)
- 1月24～25日 駿台体育会と体育会監督会との
(土・日) 合同研修会(箱根湯本ホテルおかだ)
- 1月31日(土) 第53回なため会W(丹沢大山)
- 2月10日(火) 運営委員会(体育記念室)
- 3月7日(土) 平成26年度卒業生歓迎会
(リパティタワー)
- 3月10日(火) 運営委員会(体育記念室)

ご案内

住所変更や慶弔事など、なため会々員の動静については、下記の総務部担当者まで連絡願います。

総務部 松井 法一(974)

住 所：〒335-0023 埼玉県戸田市本町5-3-19

電 話：048-433-6256 (090-8649-0849)

メール：shu-ken@mtd.biglobe.ne.jp

暑中御見舞申し上げます。

昭和39年度卒業 山久会



2014/02/01
山久会・玄品池袋

榎本昌弘 奥倉勇一 東郷隆男 深川克人 志村和久 西沢宏子 磯崎守弘
鈴木正彦 守重芳樹 飯塚典夫
佐藤 昭 井出健一 池田陽一 佐藤 寛 大橋洋祐
文村宣司 天野義美 増田陽三 三宮道雄 三嶋保郎 小島政男

編集後記

BN 601 池上 勝彦

うつつとうしい梅雨の最中に台風が発生。各地でのゲリラ豪雨に因る被害が相次いでいます。ここ数年不安定な異常気象が続き、その勢いは止まりそうにありません。

気候も異常なら世の中も異常ばかりですね。脱法ハーブ、ストーリーカーの身勝手や子育て放棄による命の尊さが軽んじられる事件ばかりが増えていきます。

薫風のようにさわやかな風を世の中に広げたいものです。その「薫風」も49号発行となり、これもひとえにOB、OGの協力の賜物と申します。今後も原稿、宜しくお願い致します。ワンダーフォーゲル部重鎮であった鈴木善次郎元監督も今年で十七回忌。なため会に貢献いただき、ここに改めて謝意を表わしたいと思います。

発行日 平成二十六年七月

編集 鈴木康弘 一色雅男

池上勝彦 石井克太

猪狩 稔 加藤章一

井上稔也 日暮浩美

発行者 明治大学体育会

ワンダーフォーゲル部なため会

印刷所 三協印刷株式会社